

第6回（平成22年度第1回）方法論パネル議事概要

日時：平成22年5月21日（金）13:00～16:00
場所：社団法人海外環境協力センター会議室
出席者：水野座長、田上委員、吉高委員、仲尾委員
欠席者：橋本委員、山田委員

【議題1 はじめに】

- 第5回方法論パネルの議事概要について事務局より報告。

【議題2 既存方法論に対する修正提案に対する技術的検討（修正審議）】

- 資料2-1「E001 化石燃料から未利用の木質バイオマスへのボイラー燃料代替（案）」
 - ・購買データで把握する場合であっても、購買データが重量ではなく、容積量から比重を用いて重要換算している場合等においてはモニタリングパターンCとする旨を記載
- 資料2-2「E003 木質ペレットストーブの使用（案）」
 - ・ペレットの販売量で把握できない場合は、購入量で把握する方法を追記
- 資料2-3「E004 廃食用油由来バイオディーゼル燃料の車両等における利用（案）」
 - ・廃食用油について、日本国内で発生した廃食用油のみをプロジェクト対象とし、海外で発生した廃食用油によって製造されたバイオディーゼル燃料等は対象外に。
 - ・「バイオディーゼル燃料の製造・利用に係るガイドライン」全国バイオディーゼル燃料利用推進協議会の平成22年3月15日改正を反映。（改正日付の修正）
 - 以上の主な修正に対して、不明点についての質問があったほか、特に大きな修正を要する議論はなかった。
- 資料2-4 登録後プロジェクトへの活動追加に関する考え方（案）
 - ・① 追加される活動が、不特定多数の市民等の参加によるものであること、② 追加される活動ごとにベースライン・シナリオが明確に設定できること、③ 追加される活動ごとにプロジェクト活動が確実に実施されること、④ 追加される活動に、適格性条件に対する妥当性確認の必要がないこと、⑤ 検証段階における確認負担が大きく増えないこと、⑥ 参加表明の取得、ダブルカウントの回避措置が行えることの6要件を満たせば、登録後プロジェクトへの活動追加・検証時確認としたい。
 - 市民によるダブルカウントは考えにくい。
 - 誓約書提出による市民の便益がない。他に方法はないか。

【議題3 新規方法論（案）に係る技術的検討（方法論採択前審議）】

- 「小水力発電による系統電力代替（案）」
 - ・意見募集においては方法論設計に影響を与える論点はなかった。
 - ・排出係数等の議論を再度整理した上で、方法論として公表する。
 - 以上の主な修正に対して、不明点についての質問があったほか、特に大きな修正を要する議論はなかった。

【議題4 新規方法論（案）に係る技術的検討（意見募集前審議）】

- 資料4-1「家庭系生ゴミ等由来のバイオガスによる、熱および電力供給のための化石燃料代替（案）」
 - ・他にも対象となるものもあると思われるが調整中。まずは家庭系生ゴミから始める。
 - このプロジェクトがなくても家庭系生ゴミは自治体が回収しエネルギー利用されているのではないか。
 - ごみ保管時のメタン発生についてどう考えるか。
 - 今回意見募集にかけるより、もう一度議論をした方がよい。

- 資料 4-2「低タンパク配合飼料利用による豚のふん尿処理からの N2O 排出抑制（案）」
- ・適格性基準に、「プロジェクト実施前と実施後における LC-CO2 の定量的な比較分析を行い、低タンパク配合飼料の製造時及び運搬時の CO2 排出量（ただし、運搬時は海外部分のみ）が、慣用飼料のそれと比べて同等以下と判断できること。」を追加する。
 - 肥育豚を厳密に 30kg 以上とするとモニタリングする必要がある。慣行上の肥育豚でよいのではないか。
 - 豚のくいこぼしの量をどのようにとらえるか。
 - 他の方法論との平仄上、輸送部分は外せるのではないか。

【議題 5 新規方法論提案状況と暫定評価に対する審議（方法論検討前審議）】

- 補助事業対象方法論検討リスト（案）と新規方法論策定について
- ・補助事業を活性化するためにいくつかの方法論の検討を進めたい。
 - 農業系のものや国土交通系のものもニーズがあるなら 21 世紀枠のようなところで取り組んではどうか。
 - 家庭系や断熱としての屋上緑化なども検討してみてもどうか。

【議題 6 その他】

- 今後の日程が確認された。

以上